



これからのデジタル社会を生きる子どもたち

～インターネットとの上手なつきあい方、そして“人とのつながり”や“体験”の大切さ～
常滑市立三和小学校長 岩月 浩子

子どもたちは私たちの想像を超えるスピードで進化するデジタル社会の中で育っています。学校でも、一人一台端末のタブレットなどのデジタル機器を、調べ学習や情報共有で活用しています。家庭においても、SNSでのやりとりや、生成AIによるアイデア出しなど、学びや生活の場面でインターネットやAIを活用する機会が増えていると思います。

この夏休みに、教職員は「生成AIの活用」に関する研修を受け、生成AIを業務の中でどのように取り入れていけるかを考えました。生成AIは、子どもたちの思考を広げたり、表現の幅を広げたりする可能性のあるツールです。一方で、正確性の確認や、依存しすぎないバランスのとれた活用が必要です。将来的に教育活動において活用できるように、今後も検討を進めてまいります。

デジタル技術が発展するからこそ、子どもたちにとって欠かせないのが、人と人との“直接的なコミュニケーション”の力です。画面越しのやりとりだけでは伝わらない、表情や声のトーン、相手の気持ちを想像すること——そうした経験を通じて、子どもたちは「思いやり」や「社会性」を育んでいきます。こういったことを踏まえて、三和小学校でも対話活動を授業でとりいれています。

さらに、自然の中で遊ぶこと、身体を使って挑戦すること、人と協力して何かをつくりあげることなど、五感を使った“直接体験”も、子どもの成長には欠かせない学びの機会です。デジタル技術だけでは得られない、生きる力や感性は、こうしたリアルな体験から育っていきます。夏休み中に、家庭での三和っ子の姿を聞く機会がありました。自然豊かな三和地区でたくさんの生き物を捕まえ、環境を整えて飼育しているそうです。自然の中で五感を使った直接体験をたくさん積んだことが伝わってきました。学校ではコミュニティ・スクールを推進し、保護者や地域の皆様のご協力を得て、様々な体験活動を行っています。

インターネットを正しく使いこなす力と、人とつながる力や体験を通じて学ぶ力——どちらも、これからの時代を生きていく子どもたちにとって大切なものです。学校では、こうした力をバランスよく育てていけるよう、日々の教育活動に取り組んでいます。

ご家庭でも、お子さまとの会話で、スマートフォンの活用方法やSNSやチャットの内容、対面でのやりとりの良さなど話題にさせていただけると幸いです。学校と家庭が協力し合いながら、子どもたちが安心して、そして豊かに成長していけるよう、これからもご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

車いす体験(4年生)

7月7日(月)の「あすチャレ!スクール」を受けて、8日に4年生が車いすを体験しました。車いすの操作は難しかったようですが、少しずつ慣れていきました。最後はバスケットボールのシュートに挑戦しました。



職員作業

夏季休業中に、倉庫の整理と不要物の廃棄を行いました。

